

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	15-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) The J-Curve in HIV: Low and Moderate Alcohol Intake Predicts Mortality but Not the Occurrence of Major Cardiovascular Events. HIVにおけるJカーブ：低-中等度飲酒は主要な心血管イベントではなく死亡を予測する		
執筆者 Wandeler G, Kraus D, Fehr J, Conen A, Calmy A, Orasch C, Battegay M, Schmid P, Bernasconi E, Furrer H; Swiss HIV Cohort Study.		
掲載誌 J Acquir Immune Defic Syndr. 2016 Mar 1; 71(3): 302-9. doi: 10.1097/ QAI.0000000000000864.		
キーワード 飲酒、HIV 感染、死亡、心血管イベント、コホート研究		PMID 26444500
要 旨 目的： HIVに感染していない集団では、低-中等度の飲酒は飲酒しないものよりも心血管疾患（CVD）の有病率・死亡率が低いとされている。しかし、HIV感染者において同様の関連があるかどうか、その詳細については検討されていない。そこで、HIVコホートにおける飲酒量とCVDの関連を明らかにすることを目的とし検討を行った。 方法： スイス HIV コホート研究の対象者のうち、抗レトロウイルス療法（ART）を受けている成人を本研究の対象とした。対象者を飲酒量で4群に分類した。すなわち、①飲まない・極少量（<1g/日）、②少量（1-9g/日）、③中等度（女性：10-29g/日、男性 10-39g/日）、④大量飲酒に分類した。コックス比例ハザードモデルを用い、飲酒量と死亡あるいはCVDイベント（複合エンドポイント）との関連を検討した。 結果： 追跡期間中（46,719人年）、対象者9,741名中788名に死亡あるいはCVDイベントを観察した。飲酒なし・極少量の群に比べ、少量（ハザード比 [HR] 0.79, 95%信頼区間 [CI] 0.63-0.98）、中程度（HR 0.78, 95%CI 0.64-0.95）で、死亡またはCVDイベントの複合エンドポイントのリスクが有意に低かった。なお、飲酒量とCVDイベントに有意な関連は認めなかった。 結論： ARTを受けているHIV感染者においても非感染者と同様、飲酒をしない・極少量飲酒に比べ、低-中程度の飲酒で死亡またはCVDイベントリスクが低かった。しかし、この結果は、複合エンドポイントによるものであり、死亡による影響が強い。また、飲酒パターンやアルコールの種類による影響は明らかではなく、さらなる検討が必要と考えられる。		